

USA

● アメリカ

高齢者の進化

残された時間を快適に生きる

「年を取ると忘れっぽくなって……」——年齢とともに衰える記憶力についてはとかくネガティブに捉えられがちだ。しかし、「物忘れ」を利点と捉え科学的に証明した研究がある。

デューク大学とアルバータ大学の研究チームは、20代半ばと70代の二つのグループに依頼し、当たり障りのない写真と切断された死体や病気の子どもの描写など極めてネガティブな写真を見せた。その後被験者に、見せられた写真を思い出すよう求めたところ、70代グループは20代グループよりも否定的な描写を思い出すのが困難であったという結果が出た。

この研究は脳における感情的記憶の形成経路を追跡し、年齢による相違を明らかにした世界初の調査として『Psychological Science』1月号で発表された。

画像を見ている間に撮影された脳のスキャンによって、両グループとも脳の感情核では同様の活動をしているが、その感情核が影響し合う他の脳の部分に大きな違いがあることが明らかになった。若者は学習と記憶を司る「海馬」と結びついている一方、高齢者は感情抑制に深く関わる部分と強く結びついている。

主執筆者であるデューク大学心理学認知神経科学大学院生 Peggy St. Jacques氏は「抑制核は、高齢者が記憶を形成するときに、不快なイメージをろ過し、再評価するのを助ける。」と発表した。彼は、高齢者が何故不快な記憶が曖昧になるのかについて重大な根拠があると語っている。「年を重ねるにつれ、残された時間への展望には限界があるので、情緒的な安らぎを高めることの方により強い意識を向けるのかもしれない。」

「こうした研究結果から、もし感情的に楽しく肯定的なイメージで情報を得るならば、高齢者は、それを思い出し易くなるだろうという仮説は正しいと思われる。今後高齢者の記憶を改善するための薬品や治療を開発する上で、重要な手がかりとなるだろう。」と、アメリカ国立老化研究所の主席脳科学者 Molly V. Wagster は語っている。

そのように考えると、「忘れっぽさ」は人生の後半をより快適に生きるために人類が獲得した進化の過程と捉えることもできよう。

Global Aging Action : <http://www.globalaging.org/health/us/2009/has.htm>

CZECH

● チェコ共和国

チェコの年金改革、第二段階へ

日本と並ぶ超少子高齢化への対応

人口推計によると2050年にはチェコ共和国は日本と並び、世界で最も高齢化率の高い国の一つとなる。チェコの人口の半数以上が50歳以上、1/3近くが65歳以上となる。また、1990年代、チェコの出生率は1.89から1.13に低下した。1990年から2007年の間に女性の初産の年齢が22.5歳から27.1歳になった。その同じ期間に平均寿命は男性が6年、女性が4.5年伸びた。

こうした少子高齢化に対応するために、社会保障、医療、労働市場がチェコ政府にとって重要課題となる。主要政策の一つは世代間の団結を維持しつつ、年金システム全体の長期の財政的安定性を保障する年金改革である。

現在、チェコの年金制度は次の2本柱からなる。

1. 強制加入の公的年金
2. 補足的個人年金

2008年7月に議会に承認された年金改革の第一段階では、男性65歳、女性62～65歳への退職年齢の引き上げ、最短保険期間の25年から35年への延長、退職時期のフレキシビリティ、障害者年金の改訂を導入した。これらの方策により公的年金計画の財政的持続性が維持され、2030年までに年金の会計バランスが回復すると予測されている。

第二段階は2009年に計画されており、この段階では個人年金の改正を導入する。その中には税金軽減による個人の貯蓄の増加と、個人年金スキームへのより高額な拠出の促進、個人年金スキームへの企業の加入促進などを含んでいる。

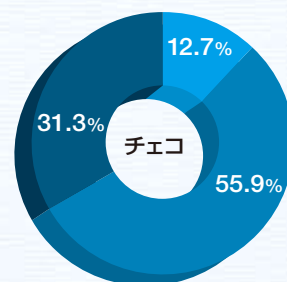
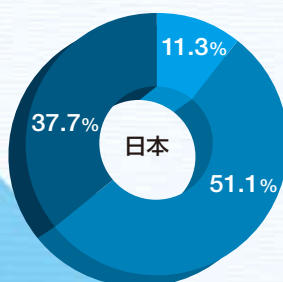
第三段階の焦点は退職後の財源確保の多様化、基礎年金から自主管理型年金の創出、強制的拠出の一部の民間基金への移行となるだろう。

「障壁なきヨーロッパ」*をめざすチェコ政府とEUとの関わりを含め、今後の展開が注目される。

*: EU内で4つの自由(商品、資本、サービス、人の自由な移動)を保障しようとする合意。
<http://www.radio.cz/en/issue/50251>
<http://www.radio.cz/en/issue/48385>

2050年の人口統計指標

■ 0～14歳 ■ 15～64歳 ■ 65歳以上



出典：国立社会保障・人口問題研究所